

2016年6月21日発行(16-1号)

一般社団法人日本社会福祉学会

中国・四国地域ブロック会報

発行者: 中国・四国地域ブロック担当理事
杉山博昭(ノートルダム清心女子大学)

広報担当: 片岡信之(四国学院大学)
黒田文(島根大学)

事務局: 岡山県立大学 山本浩史
岡山県総社市窪木111

ホームページ: http://www.jssw.jp/district/chu_sikoku.html

目次:

- I. 巻頭言
- II. 中国・四国地域ブロック第48回山口大会のご案内
- III. 2016年度社会福祉学会フォーラムのご案内
- IV. 中国・四国地域ブロック合同研究会報告
- V. 機関誌投稿原稿募集のお知らせ

I. 巻頭言

このたび、中国四国ブロック担当理事に選出されました、ノートルダム清心女子大学の杉山と申します。横山正博先生から、引き継ぐことになりました。横山先生のお仕事を、これまで事務局長として見てきました。とても自分にできそうなことではなく、当惑しているのが本音ですが、選ばれてしまった以上、責務を遂行していきたいと考えております。

初めに、中国四国との縁を書きますと、生まれは鹿児島ですが、島根県の小学校を卒業し、山口県の中学・高校を卒業しました。大学は愛知県でしたが、在学中に父が高知に転勤したので(国家公務員のため、各地を転々とした)、たびたび高知に滞在し、実習も高知でしました。一時期、大阪で現場の仕事をしていましたが、1994年に宇部短期大学(現・宇部フロンティア大学短期大学部)に赴任することで、中国四国に戻ってきました。長崎純心大学に転任して8年間、中国四国から離れましたが、2008年からノートルダム清心女子大学に勤務しています。研究領域は日本社会福祉史ですが、特に山口県を主な対象として研究してきました。個人研究のほか、山口県史編さん委員を務めています。

私は、他の3つのブロックを経験しましたが、中国四国ブロックは、他のブロックと比

べ、規模の大きな大会を継続して実施しているなど、他と比べて、活発に活動してきたと
いっていいと思います。きわめて広域であることや、小規模な大学が大半であることなど
のハンディを考えると、これまでの理事の先生はじめ、会員のブロックへの思いの強さを
感じます。

これをきちんと継承していくことはもちろんですが、現在取り組んでいる特定課題研究
を推進していくなど、さらに発展させていかなければならないと考えています。

一方で、社会福祉学科の学生募集の困難、各大学での多忙化による研究条件の悪化など、
研究を取り巻く状況が厳しいことも確かです。中国四国はそうした傾向がとりわけ進んで
います。状況を打開するには、学会としては研究の充実への取り組みを地道に進めていく
ほかないのだろうと思います。そのために、ブロック活動の意義がますます重要になって
いると感じます。

いずれにせよ、ブロック活動の活性化には、会員の協力なしには実現しないことであり、
いっそうの協力をお願いいたします。

杉山 博昭（ノートルダム清心女子大学）

Ⅱ. 中国・四国地域ブロック第 48 回山口大会のご案内

すでに郵便およびメールにてお知らせしておりますように、以下の要領で中国・四国地
域ブロック第48回山口大会を開催いたします。ふるってご参加ください。

大会テーマ：スクールソーシャルワーカーのあり方と方向性

日時：2016年7月2日（土）10:00～16:30（懇親会 17:00～19:00）

会場：宇部市文化会館 2階 研修ホール

〒755-0041 山口県宇部市朝日町8-1

TEL：0836-31-7373

Ⅲ. 2016 年度社会福祉学会フォーラムのご案内

2016 年度「日本社会福祉学会フォーラム」を、中国四国ブロックの担当で岡山市内で開
催します。

開催日時は 2017 年 3 月 26 日（日）に決まりました。テーマや内容は、現在検討中です。
決まり次第、会員の皆様にお知らせしますので、積極的な参加をお願いいたします。

IV. 中国・四国地域ブロック合同研究会報告

2015年2月22日、地域創生が各地のコミュニティの持続可能性を含めて問われている現在、中国・四国地方における「地方（地元）」の視点による社会福祉研究を集約し、研究会を通じて多面的に議論を深めつつ、全国へ向けてその成果を積極的に発信することを目的として、研究会が立ち上がりました。その呼びかけに諸氏が応えて下さり、去る2016年3月18日、第2回研究会が開催されました。

報告者とテーマは以下の通りです。

- 1) 山本浩史（岡山県立大学）
中山間地域に暮らす高齢者の生活課題と生活を継続させる要因
～中国地方のある中山間地域に暮らす高齢者に対する参与観察からの分析～
- 2) 黒宮亜希子（吉備国際大学）
中山間地域における「見守り」に関する探索的研究
－専門職へのインタビュー結果をもとに－
- 3) 朝比奈 寛正（高知県立大学大学院人生活学研究科）
アルコール関連問題におけるソーシャルワーク
- 4) 難波利光（下関市立大学）
自治体境界による社会福祉サービスに対する阻害効果
- 5) 川上富雄（駒澤大学）
中山間地域・離島過疎地域の生活課題と支援対策のあり方

各会員から自由な発題を戴きましたが、「中四国地域」を切り口とする地域特性や分析視点のみならず研究方法についても活発な議論が展開し、それぞれの発題者もその他の参加者も大いにインスパイアされる大変有意義な研究会となりました。ともすると時間的制約のために、率直に意見を戦わすレベルにまでいかない研究会が多い中で、とても実のある意見交換の場であったと思います。

これからも、この機運を育て、会員相互で盛り上がった論議から夏の中国・四国大会での特定課題セッションでさらに深化させ、着実な成果へとつなげていくよう、中四国学会を大いにご活用いただきたいと存じます。

研究担当：加登田 恵子（山口県立大学）

V. 機関誌投稿原稿募集のお知らせ

日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック機関誌 「中国・四国社会福祉研究」第5号 投稿原稿募集

中国・四国地域ブロック機関誌（査読あり）の第5号を発行する運びとなりました。中国四国地方ならではの社会福祉の諸課題、社会福祉の実践活動を全国に発信していきたいと考えています。会員諸氏の積極的な投稿をお待ちしています。

投 稿 要 領 等

【執筆要領】 日本社会福祉学会機関誌『社会福祉学』の執筆要領に準じます。
・チェックリスト提出 ・図表含めて20,000字以内（A4 40字×40行 ワード作成）・3部提出 など
※投稿要領等の詳細は中国・四国地域ブロックのホームページをご覧ください。http://www.jssw.jp/district/chu_sikoku.html

【原稿の種類】 「論文・実践報告・資料解題・調査報告」の中から選択して投稿可能です。

【原稿締切】 2016年11月28日(月)

本大会の自由研究報告者の
積極的なご投稿をお待ちしております。

【原稿送付先】 〒799-2496 愛媛県松山市北条660 高杉公人研究室
中国・四国地域ブロック機関誌編集委員会 事務局宛

その他、ご不明な点は本機関誌編集委員会まで、お問い合わせ下さい。なるべくメールでお問い合わせください。

編集委員会事務局 原稿送付先と同様
Tel : 089-993-0702
e-mail : kimiruhito@catherine.ac.jp